

令和6年度全国学力・学習状況調査が4月18日等を実施され、大東市の全公立小学校の6年生827名、中学校の3年生799名が調査に参加しました。

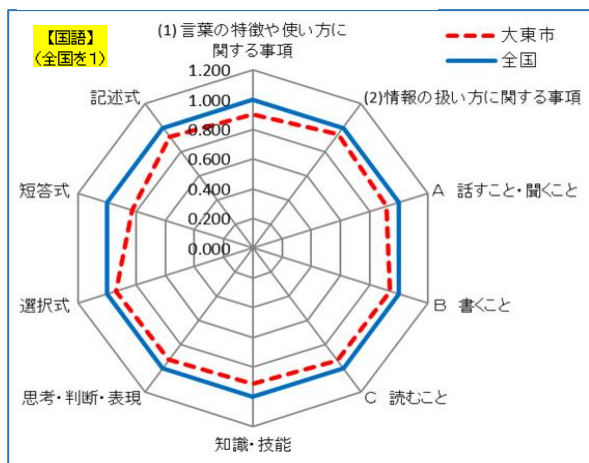
調査内容は、国語、算数・数学による「学力調査」、児童・生徒に学校生活や家庭生活の様子をたずねた「児童・生徒質問紙」、各学校の取組み状況や教職員の意識についてたずねた「学校質問紙」の三つからなっています。

本調査で測ることができるのは児童・生徒の学力の一側面ではありますが、教育委員会では、分析した調査結果を学校での「授業改善の工夫」および児童・生徒の「学習意欲と学力の向上・基本的生活習慣の定着」に役立てるとともに市の教育施策に反映させてまいります。

問 教育研究所 ☎870・9107

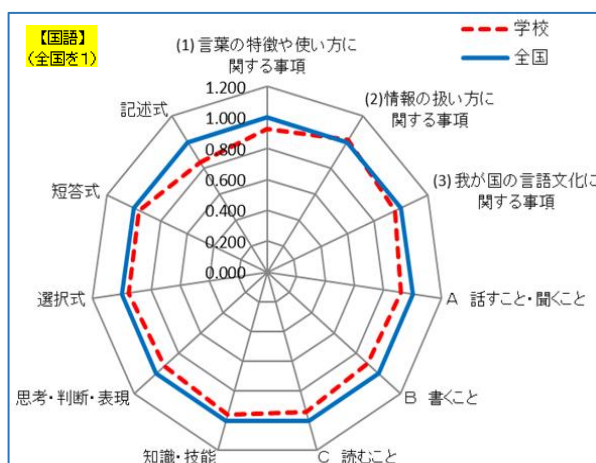
小学校 平均正答率

【国語】大東市 62%

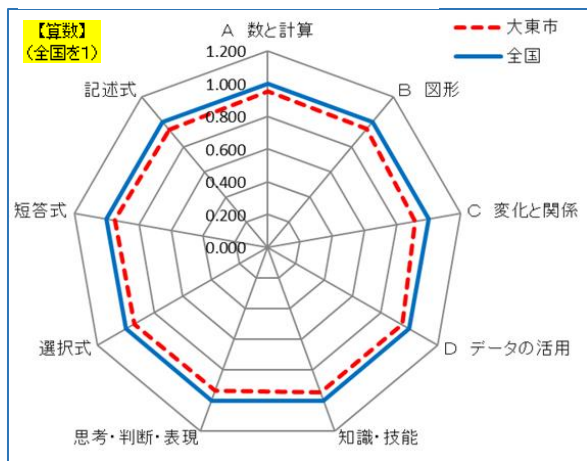


中学校 平均正答率

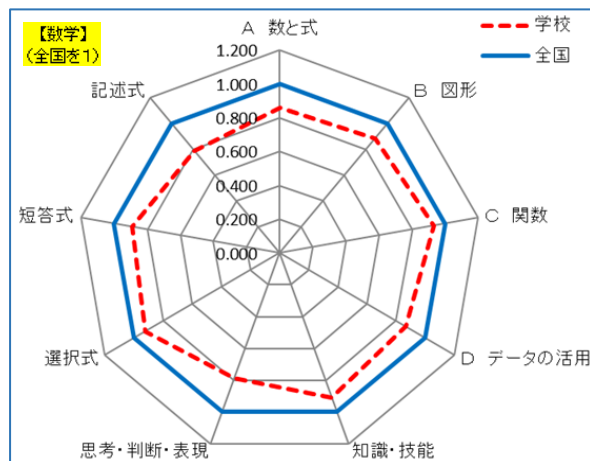
【国語】大東市 55%



【算数】大東市 60%



【数学】大東市 47%



小学校 学力調査の結果より

【国語】

「書くこと」の領域は、全国平均を下回っているものの、向上がみられ全国平均に近づきました。また、「記述式」の領域も、昨年度から向上がみられます。一方で、漢字を正しく書き直すことについての設問では、正答率が約3割のものもありました。漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにすることが求められます。

【算数】

「データ活用」の領域において、向上がみられ、全国平均に近づきました。また、「記述式」の領域も、昨年度から向上がみられます。一方で、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことについての設問には課題がみられます。数量の関係がつかみにくい問題の解決において、問題場면을図に表して関係を捉える実践の充実が求められます。

中学校 学力調査の結果より

【国語】

無解答率については、良好な状態が継続しており、全国平均と同様の数値となりました。生徒が学びに向かう意欲の高まりを感じます。一方で「自分の考えを書く」「要約する」等の設問については、正答率が約4割と課題がみられます。話し合ったことを基に自分の考えをまとめる学習活動の充実が求められます。

【数学】

「図形」の領域において、昨年度より向上がみられました。生徒質問紙「最後まで書こうと努力した」と回答している生徒の割合は、全国を上回る結果となっています。一方で、等式変形や確率を求める設問については、課題がみられ、より丁寧な取組みが求められます。